



交通アクセス

- 列車・バスで
九州新幹線新玉名駅下車
バスで高瀬行き (約5分)、
JR玉名駅下車
バスで高瀬行き (約5分)
 - 車で
九州自動車道菊水ICで降り
県道16号経由で約20分
- 〈問い合わせ先〉
〒865-8501
熊本県玉名市岩崎163
玉名市教育委員会教育部文化課
TEL:0968-75-1136 FAX:0968-75-1138
玉名市HP: <http://city.tamana.lg.jp/>



<https://www.kikuchigawa.jp/>



玉名市指定史跡

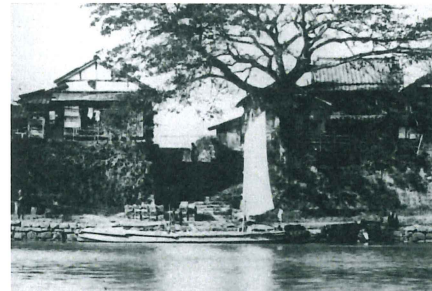
たかせ ふなつき ばあと
高瀬船着場跡
たかせ おくらあと
高瀬御蔵跡



高瀬裏川花しょうぶまつりの様子



俵ころがし (新渡頭)



大正時代ごろの高瀬船着場



高瀬船着場復元模型 (玉名市立歴史博物館こころピア展示)

■ 菊池川の恵みとともに栄えた高瀬

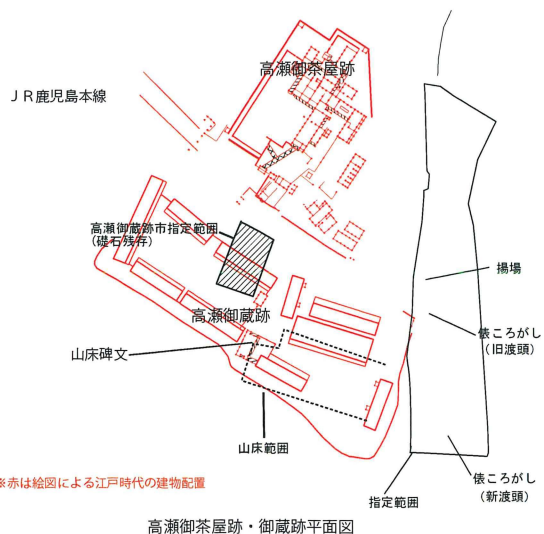
玉名地域の中心に位置する高瀬は、菊池川河口の港として栄えた町です。古くは有明海を介して、海外との窓口になっていました。江田船山古墳や大坊古墳などからは、朝鮮半島からもたらされた金製耳飾りが出土しています。菊池川流域の豊かな森林資源や刀剣などは、高瀬の港から海外へ輸出され、有力武士団であった菊池氏の繁栄をもたらしました。菊池川からは中国から輸入された陶磁器が見つかります。また、海外からは中国の高僧やキリスト教の宣教師なども訪れています。江戸時代には藩の高瀬御茶屋、高瀬御蔵がおかれ、川尻、高橋とともに熊本藩の重要な港町であり、熊本、八代の両城下町と並び五か町として別格とされていました。町奉行がおかれ、有力な商人たちが町を治めていました。



■玉名市指定史跡

たかせふなつぎばあと 高瀬船着場跡

高瀬船着場跡は、高瀬御茶屋及び御蔵跡東側の菊池川添いに位置し、川岸の約100mほどの範囲が石垣で整備されています。かつては御茶屋への川側からの入口及び年貢米の積み出し港でした。米俵を船に積み込むための「俵ころがし」という施設が設けられました。上流側は旧渡頭と呼ばれ、御茶屋への階段状の入口と俵ころがしがあります。下流側は新渡頭と呼ばれ、俵ころがし1基があります。山床碑文によって、天保12年(1841)に大規模な改修工事が行われ、御米山床とともに新渡頭が整備されたと考えられます。



高瀬御茶屋跡・御蔵跡平面図

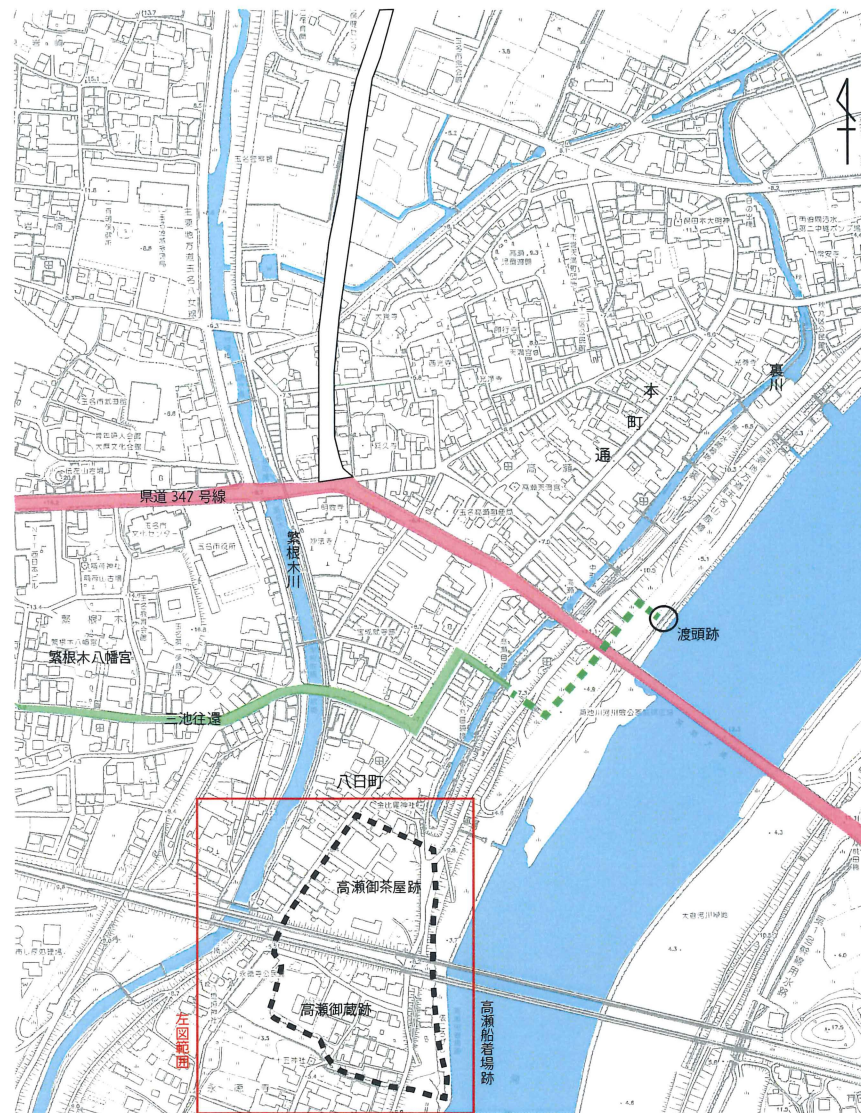
■玉名市指定史跡

たかせおくらあと 高瀬御蔵跡 たかせおちやあと 高瀬御茶屋跡

高瀬御茶屋は、江戸時代の熊本藩の施設で、藩主、賓客や藩士の宿泊・休憩などに利用されました。現在のJR鹿児島本線の北側の敷地が御茶屋跡で、塀に囲まれた建物が建てられていました。現在は建物はなく、古井戸が残されています。御茶屋の南側が高瀬御蔵で、年貢米を保管する蔵や、米俵を野積みする山床が整備されました。

熊本藩の年貢米は、大坂の堂島へ送られるため、「津端三蔵」と呼ばれる高瀬・川尻・八代の各御蔵に集められ、厳重な管理が行われました。高瀬御蔵には、菊池川流域からの年貢米が納められ、嘉永年間には最大25万俵ほどが集められました。堂島への積み出し量は、文化年間の船積量が藩全体で約40万俵あり、うち高瀬20万俵、川尻15万俵、八代5万俵と、高瀬からの積み出し量が最大でした。積み出された年貢米は、熊本藩の財政基盤となり、藩及び地域を支える重要な収入源となりました。

江戸時代を通じて大きく発展した高瀬御茶屋と御蔵でしたが、明治10年の西南戦争で焼失し、その役割を終えました。



高瀬地区全体図